

第5次真庭市男女共同参画基本計画（あい・プランまにわ）（案）に対する意見の内容や意見に対する市の考え方について

番号	該当箇所	意見の概要	市の考え
1	全体について	本計画を読んでとても感動しました。 その理由を考えてみると、これほどに「わかりやすいだけでなく、必要な文言がまとまっている基本計画」を見たことがないからかもしれません。	男女共同参画は、意識を変えることが重要で、市民のみなさんに計画を知っていただけるようにしたいと考えております。策定後も、周知を図るとともに、進捗状況についてもわかりやすく伝えていくよう努めます。
2	全体について	まず、本計画書全体がイラストを多用して分かり易く記述されている点について過去の同様の計画書と比較して、先進的でとても良いと思います。	
3	全体について	知名度のある民話になぞらえて計画の段階を追っていくのは読みやすく、親しみを感じました。2ページ目の第1章で「かぶ」「土・石」「仲間」が意味すること、それが第2章の現状と課題につながっているところが数ページの中で簡潔にまとめており、非常にわかりやすかったです。	
4	全体について	本計画案には、因果関係まで踏み込んだ分析や強い問題意識が示されており、大きな意義を感じました。「土（文化・意識）」「石（制度・構造）」「仲間（つながり）」という整理は画期的で、物語として、広く市民に共有されることを期待しています。	
5	全体について	・第4次真庭市男女共同参画基本計画との違い 第5次は「おおきなかぶ」を取り入れた斬新なスタイルだったため、第4次はどうだったか気になり読んでみました。 印象的だったのは、第4次には多用されていた「男女」という言葉が非常に少なく、「個人としての尊重」あるいは男女に限定されない「みんな」といった包括的な言葉を選ばれているように感じ、良いと思いました。	
			男女共同参画は、共生社会実現にあたり社会的性差を解消することを目指すものと位置づけています。共生社会は、個人の尊重が基本です。このため、目指す姿については、「男女」で考えるのではなく、「みんな」が含まれるよう言葉を選びました。

番号	該当箇所	意見の概要	市の考え
6	全体 表記方法について	この計画において「かぶ」は、「誰もが自分らしく生きられる地域」を象徴するものと定義されています。3ページ目以降に出てくる、かぶ、という言葉の中にカギ括弧がついているものについていないものがありますが、何か使い分けをされていますか。すべてカギ括弧に入ると、文章として見にくいかもしれませんが、野菜のかぶではなく象徴としてのかぶであれば、すべてカギ括弧に入れたほうがいいのかも思いませんでした。いかがでしょうか。 同様に、抜く、という言葉もひらがなと漢字が混ざっているのは、意識として使い分けられているのでしょうか。	「かぶ」をたとえに使っているため、読みにくい部分があります。読みやすく、わかりやすい表記となるように工夫します。
7	施策の独自性について	実施施策について、真庭市独自性が感じられず、日本全体で行われている施策という印象が強く感じられた。本市の課題も全国の課題と同じなため、同様な計画になったとも理解できますが、施策の中に何か地域の特性を反映したものがあっても良いのではないかと思います。	日本のジェンダーギャップは、社会構造化された固定的役割分担意識によるものとされています。真庭市でも、意識調査等をしたところ、全国と同じ構造及び課題があります。今後、市民の方と取組事業を一緒に考えて行くこととしており、その中で、真庭市にあった事業を実施したいと考えています。
8	第4次計画とのつながりについて	本計画が第5次計画になっていますが、今までの計画と本計画とのつながりを明確にした方が本計画の策定意義がより明確になると思います。今までの計画で達成できていないことをこの5年間で重点的にやっていくことで限られたリソースの中で効率的な実施が可能と考えます。	本計画は、第4次までの計画の流れの延長線にあるものです。表記に追加します。また、第4次の取組施策や効果については、資料の中で公表する予定です。そうした資料をもとに、市民の方と考えていくようにします。
9	施策の進め方について	本計画は「土」と「石」を改善することを目指していると感じました。そのためには、市民自身が自らを取り巻く文化や制度をメタ認知できる機会が不可欠です。その為の、押し付け感のない、自ら気付く啓発、社会教育活動、学校教育での在り方、また、市民活動支援に期待したいです。	ご指摘の通り、意識変革（土の改善）を通じて、社会制度を変える（石の改善）ことを重点施策にあげています。そのために重要なことは、仲間づくりを通じて市民が自分事として考えるきっかけを作り、土と石の改善につなげていくことだと考えております。具体的な事業の実施にあたり、ご意見を生かしていきます。

番号	該当箇所	意見の概要	市の考え
10	施策の進め方について	<p>私自身、家庭内の役割分担について十分にできているとは言えません。だからこそ、本計画を他人事ではなく自分事として受け止めています。</p> <p>本計画が特定の担当者の熱意に依存するのではなく、庁内全体で共有され、実践を通して毎年ブラッシュアップされる「回り続ける仕組み」となることを強く期待しています。</p>	<p>具体的事業については、市民の方や団体・事業者の方との対話を通じて、考えていくこととしています。市民の方や団体・事業者の方とブラッシュアップを話し合い、その仕組みを作り、継続できる体制を作ります。</p>
11	1 ページ 民話「大きなかぶ」の説明について	<p>タイトル：『大きなかぶ』の物語から学ぶ【計画の趣旨】について</p> <p>『大きなかぶ』が何なのかは、先にも述べたとおり、知っている人が多いと思います。</p> <p>でも念のため、「ロシア民話。日本でも」絵本などで広く親しまれている。」といった注釈があるとよりよいかと思います</p>	<p>「大きなかぶ」の民話をモチーフにしていることを、わかりやすく伝えるため、1 ページ目の注釈に加えます。</p>
12	2 ページ 表現について	<p>ページ2 「真庭市でも、」に続く文章について</p> <p>第一段落で、課題が挙げられており、第二段落でその課題を解消するために本計画を策定したことを説明している部分だと思います。しかし、現行の書きぶりですとつながりが少し分かりにくく感じました。</p> <p>もう一点、第二段落で、「市民と一緒に考え、実践する」と書かれているところ、先を読み進めて、9 ページ目の「推進体制」を見ると市だけでなく、市民、団体・事業所もそれぞれ役割を果たすとされているので、この第二段落でもこの推進体制を意識した書きぶりにするのはどうでしょうか。</p> <p>たとえば一例として、第二段落の修正を次のとおり提案します。</p> <p>→「そこで、これらの課題を解消していくために、民話『大きなかぶ』からヒントを得て、本計画を策定しました。「仲間で力を合わせる」「土をたがやし、石をどけ、抜けやすくする」「次に育てるものを共に考える」「種をまき、育てる」というストーリーは、性差に関係なく、誰もが個人として尊重され、自分らしく生きられる地域社会をみんなで一緒に考え、実現していこうということを表しています。」</p>	<p>第一段落の文章については、真庭市の課題と本計画の関係についてわかりやすい文面に変更します。</p> <p>第二段落については、ご提案の文面を踏まえて、市民と事業所・団体と一緒に本計画を推進することをわかりやすく表記します。</p>

番号	該当箇所	意見の概要	市の考え
13	2ページ 計画の趣旨について	<p>・2ページ目「真庭市でも、」の文章について かぶを抜くという共通の目的に向かえるのは、だれもが自分らしく生きられる地域の実現のためだと思いますが、現状「だれもが」の文章を自分ごとに捉えられる人はどれくらいいるのでしょうか。「少子化」や「人口減少」というキーワードもありますが、真庭市の課題により踏み込んだ内容で、皆が自覚の有無にかかわらず当事者であり、本計画が皆にとってメリットがあることを明記するのはどうでしょうか。</p>	<p>ご指摘の部分は、計画の趣旨を記載しているところです。市民の方が自分事として考えるきっかけとなることは、本計画の目的でもある意識改革にも重要だと考えます。ご意見のように、市民の方にとって、取組む意義が伝わるように、表記を改めます。</p>
14	6ページ 表現について	<p>ページ6 この絵の中のセリフに、積極的に関わっていきにくい人のセリフもあるといいなと思いました。 たとえば、「今は無理だけどいつかは自分も・・・」とか。</p>	<p>多様な立場や状況にある人も「仲間」であることが伝わるように、表現を追加します。</p>
15	8ページ 次の「かぶ」を育てることの説明	<p>・かぶをもう一度植え、育てることの必然性が計画からはわかりづらい。 ⇒個人的には「かぶ」は力を合わせて解決する「課題」とも解釈しました。共生社会の実現に当たっては一つの課題を解決して「はい、性差の無い社会になりました」ということはあり得ず、何度何度も壁を取り払う必要があると思います。かぶを再度植えるというのは、そのように次の課題をCAPDサイクルを通して解決していくことを示していると思うのです。しかし、どうしてもかぶに引っ張られると「この計画はかぶを抜くことがゴールなんだ」と思ってしまう傾向にあると思っています。そのため、なぜ次のかぶを育てる必要があるのか、8ページあたりにもっと細かく説明があるとより納得のいきやすい計画になるように考えます。</p>	<p>真庭市では、共生社会推進の中の施策の一つとして男女共同参画に取り組んでおります。ご指摘のとおり、共生社会推進は、社会の進展に合わせて、新たな課題が生じていくものです。そのため、「かぶを抜いたら、次のかぶを植えて、また抜こう」という物語となっています。わかりやすい表記にします。</p>
16	9ページについて 役割分担と推進体制について	<p>第6章は、まず現状確認のCから始まるのが、資料の中にあるこれまでに行われたインタビューやワークショップ等の裏打ちもあり現実的だと感じました。 しかし、9ページの多様な立場での協力体制について述べられている部分は、市民、団体・事業者、市それぞれの役割が分かりづらく感じました。果たして、市民及び団体・事業所の役割は実行と改善だけで良いのか？と気になりますし、推進体制が横断的である必要性がもっと書かれてほしいと感じます。役割分担の必要性はあるとは思いますが、3ページ目の【仲間】に「協働のしくみ」と記載されているため、その点を盛り込んだ文章を入れるのはどうでしょうか。</p>	<p>進捗確認と計画の策定は自治体の責務であり、評価と計画立案の役割を担っています。一方で、市民は主権者であり、生活者です。団体・事業所は、市民と一緒に社会を構成している一員です。評価と計画は真庭市が主体として担いますが、市民と団体・事業所と一緒に現状を確認し、必要な施策を考えていくものです。ご指摘のように、市全体で意識改革をしていくためには、横断的な推進体制が必要であり、表記を改めます。</p>

番号	該当箇所	意見の概要	市の考え
17	9ページ 推進体制について	<p>庁内横断連携の明確化について</p> <p>男女共同参画は、くらし安全課単独で推進できるものではなく、教育、産業、福祉、地域振興など全庁的な取り組みが不可欠です。特に、子ども計画と重なる部分が非常に大きいと感じました。例えば、家庭内役割分担、育児参加、若者の自己決定権、孤立防止などは、両計画の共通基盤であると考えます。</p> <p>計画内では「猫とネズミも協力し合う」との比喻が用いられていますが、市役所内の各計画間の連携についても、より明示的に記載されることで、大きなかぶの精神をより感じさせる計画になるように思います。例えば、子ども計画との連動施策や共同 KPI の設定などが示されると、より具体的な実践につながると考えます。</p>	<p>ご指摘の通り、男女共同参画は、あらゆる場面、あらゆる段階での取組が必要です。本計画は、総合計画、共生社会推進基本方針、総合教育大綱を実現するため、分野別の計画として策定しています。こども計画も同様で、本計画と目的は同じ、真庭ライフスタイルの実現です。ほかの行政計画も同様です。このため、ご意見のように庁内横断連携体制で進めます。</p> <p>一方、分野ごとの成果指標は、現状把握と事業改善のため施策の効果測定として必要と考えており、共有することは困難です。ただ、具体的事業は、共同や連携して実施していきます。KPI についても、同様です。</p>
18	10ページ 成果指標について	<p>・成果指標は必要なものでしょうか？</p> <p>⇒本計画における「土」をほぐすためには「社会規範」を変えていくことが必要だと思います。しかし、社会規範は意識の話ですので、定量的なデータを取るの是非常に難しく、成果を求めると恣意的な操作が入ることも十分に考えられると考えます。大きな決断かと思いますが、定量的なデータは取れる範囲でとるという判断も必要になるように思います。今回では、仲間・石については数値での指標を設定しつつ、土については指標を設置しないということもあり得ると考えます。</p>	<p>本計画の推進を確認するために、成果指標は必要だと考えています。ご意見の通り、男女共同参画を進めることは「社会規範」を変えていくことで、意識改革の定量的データを計測することは困難です。一方で、意識改革が進んだ結果として社会に現れる事象を計測することで、間接的に意識改革の状況を確認できると考えております。</p> <p>ご意見の趣旨は、成果指標の達成することが目的とならないか、という危機感だと考えます。意識改革を進めるための「確認手段」として、活用していきます。</p>
19	10ページ 成果指標について	<p>意識の変容は単年度では成しえない難しさがあるのは重々承知ですが、【仲間】【土】【石】に分けられた成果指標については、根拠となぜこの指標なのか明記が必要だと感じました。</p> <p>また、数値目標を設定することは重要であると同時に、資料に記載のあった本計画作成までのヒアリングに関しては何かしらの形で続けていただきたいとも思います。決して数値では判断できない潜在的な課題や市民の価値観の変化を見つけていって欲しいと願います。</p>	<p>計画にすべての記載することが難しいので、添付している資料に成果目標について丁寧な説明を加えます。</p> <p>また、ご指摘の通り、意識改革を数値化することが難しいものであり、成果指標として間接的に計測することとしています。市民の課題や意識、価値観の変化は、引き続き市民の方との対話やインタビューなどで把握していきます。</p>

番号	該当箇所	意見の概要	市の考え
20	10ページ 成果指標について	成果指標がやや抽象的で、一般市民には意味が分からない。各部署と相談しながら多面的に具体的な指標を設計することで、庁内全体で共有される計画ともなり、担当者が変わっても継続的に改善が進む仕組みになると考えます。	本計画では、めざす姿としての基本目標と重点施策の方向性を記載し、その計測として成果指標を設定しました。成果指標についての説明は、資料に詳細なものを付け加えます。 具体的事業については、市民の方や団体・事業者の方との対話を通じて、考えていくこととしています。その仕組みを作り、継続できる体制を作ります。事業の効果測定する指標は、設定します。
21	10ページ 終わり方について	かぶが「だれもが自分らしく生きられる地域」のメタファーであるなら、せつかくなら皆で頑張っただけ抜いたかぶをじっくりと味わう描写がもっとあっても良いのではないのでしょうか。 挿絵では調理している様子もあるのですが、かぶが抜けたそばからすぐに次の会議を始めている印象を受けます。	一人ひとりが「かぶ」を自分に合った料理にして食べることは、地域で居場所と役割があることのメタファーです。ご指摘のように、それが伝わるよう、表現を工夫します。
22	10ページ 終わり方について	絵本であれば皆で6ページ吹き出しの「かぶのスープ」や「かぶのつけもの」などを囲んでハッピーエンドになるところだと思います。しかし最後の10ページでは慣れ親しんだ民話にはない新しい物語を予感させるところが面白く感じました。	共生社会は時代に合わせて進展していくと考えており、地域の中では次の「かぶ」を育てていくことになるため、このような終わりにしました。地域生活は終わることがなく、物語も終わらない設定としています。